

四国の外来鳥類

このページでは、四国で見られる外来鳥類について解説しています。

目次

- 外来生物とは
- 外来鳥類の問題点と対策
- 四国地域の外来鳥類
- 資料
- リンク



写真 ソウシチョウ (撮影：東條一史)

外来生物とは

外来生物とは、人間の活動によって本来の分布域以外に生息するようになった生物です。外来生物による生態系の攪乱は、生物多様性を保全する上で、人為的な利用、生息地の破壊とともに、きわめて深刻な問題となっています。

外来生物のうち、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に侵略的外来種といいます。地域の生態系は、長い進化の歴史を経て、現在の状態に至ったものです。ここに外から生物が侵入してくると、生態系にさまざまな悪影響を及ぼすものと考えられます。また、人間の生活や農林水産業などの産業に悪影響を及ぼすおそれもあります。

2005年に施行された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、外来生物法と呼ぶ)では、生物多様性の保全と人間の活動への悪影響を防ぐために、問題を引き起こす可能性の高い侵略的外来生物を「特定外来生物」として指定しています。特定外来生物に指定された種は、飼育・栽培、運搬、輸入などが規制され、防除の対象となります。

外来鳥類の問題点と対策

外来生物は、生態系にさまざまな影響を及ぼします。IUCN(国際自然保護連合)は、野生生物に絶滅の危機をもたらす三大要因として、人間による直接の利用(捕獲・採取)、生息地の破壊、外来生物による脅威をあげています。

これまで日本に侵入した外来鳥類のうち、特定外来生物に指定されているのはソウシチョウ、ガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウおよびカナダガンの5種で、カナダガンの他はいずれもチメドリ科に属する鳥です。これらのチメドリ科外来鳥類は、日本国内に定着した場合、高密度に生息するようになって、地域の鳥類相を大きく改変することが知られています。また、カナダガンは2014年に特定外来生物に新たに指定されたカモ科に属す大型の水鳥で、近縁のシジュウカラガン（稀少な在来種）と交雑するおそれがあります。

このほかに、未判定外来生物（生態系などに影響を及ぼす恐れがあるが、実態がよく分かっていない生物）として、上記4種以外のすべてのチメドリ科鳥類が指定されています。また、要注意外来生物（生態系への被害に関する知見が不足している種など）としてインドクジャク、コリンウズラ、クロエリセイタカシギ、シリアカヒヨドリ、外国産メジロがあげられています。

外来生物の問題点としては、在来の生物を食べてしまう、在来の生物と資源をめぐって競争して在来種の勢力を弱めてしまう、在来の近縁種と交雑して遺伝的な攪乱を起こす、在来の生物の感染したことの無い新たな病気を在来種に伝染させる等があります。

これらの問題を生じさせないために、侵入防止、野生化防止、拡大防止の三原則が重要です。すなわち、

- (1)悪影響を及ぼす可能性のある外来生物をむやみに日本に入れない
- (2)飼っている外来生物を野外に捨てない・逃がさない
- (3)すでに野外にいる外来生物は他の地域に拡げない

の三つを厳しく守る必要があります。いったん定着してしまった外来生物を地域から根絶するのは、ものすごくたいへんな労力と予算がかかります。

四国地域の外来鳥類

2010年までに四国地域で定着していると考えられるおもな外来鳥類は次の通りです。

コジュケイ（キジ科） *Bambusicola thoracica*

[侵入生物データベース（外部サイト）へ](#)

中国南部・台湾原産。全長27cm。狩猟鳥とするために、1910年代から日本各地で放鳥され、本州、四国、九州に生息しています。すでに各地に蔓延していることもあり、特定外来生物には指定されていません。



写真 コジュケイ

(撮影：佐藤重穂、2020年8月18日 高知県香美市)

コリンウズラ (キジ科：外来生物法による要注意外来生物) *Colinus virginianus*

[侵入生物データベース \(外部サイト\) へ](#)

北アメリカ原産。全長 25cm。猟犬の訓練用として、1980年代から日本国内で放鳥されるようになり、関東地方や関西地方と四国で生息が確認されています。河川敷や草原などを生息地とします。四国では2000年ごろから愛媛県で記録されています。

※国立環境研究所の侵入生物データベースでは高知県に分布するとされていますが、本会が調べた限りでは、2011年までに高知県での確認記録は見つかっていません。

カワラバト(ドバト) (ハト科) *Columba livia*

[侵入生物データベース \(外部サイト\) へ](#)

中国西部からアフリカ北部までの温帯域に広く分布する鳩。紀元前から人間に飼育され、多くの品種が作られています。家禽化されたものが再び野生化したものがドバトと呼ばれ、日本全国に生息しています。都市公園をはじめ、農耕地などでもよく見られます。日本生態学会による「日本の侵略的外来種ワースト100」に選ばれています。



写真 カワラバト

(撮影：佐藤重徳、2018年5月10日 高知県高知市)

ソウシチョウ (チメドリ科：外来生物法による特定外来生物) *Leiothrix lutea*

[侵入生物データベース \(外部サイト\) へ](#)

中国南部からヒマラヤにかけて自然分布するスズメ大の小鳥。姿と鳴き声が美しく、江戸時代から日本で飼育されてきました。1980年代以降、本州と九州の山地の天然林で野生化し、2000年頃から四国でも野生化が確認され、分布が拡大しています。四国東部の剣山系に多く見られますが、近年、四国中西部の石鎚山系にも生息するようになりました。日本生態学会による「日本の侵略的外来種ワースト100」に選ばれています。



写真 ソウシチョウ

(撮影：谷岡仁)

ヒゲガビチョウ (チメドリ科：外来生物法による未判定外来生物) *Garrulax cineraceus*

中国中部・南部などが原産の全長約24cmの小鳥。美しい声で鳴きます。低山帯の森林の藪に生息します。1990年代後半から野生化が四国で確認されるようになり、四国の西部・中部に分布するようになりました。

2010年代以降、四国東部の徳島県、香川県へも分布が拡大しています。



写真 ヒゲガビチョウ (左：成鳥，右：幼鳥)

(撮影：岡井義明、愛媛県愛南町篠山、成鳥 2007年6月23日、幼鳥 2007年9月22日)

(Photo by Y. Okai. Mt. Sasa, Ainan-cho, Ehime Pref., Japan. Left (adult): 23 Jun. 2007. Right (juveniles): 22 Sep. 2007)

ハッカチヨウ (ムクドリ科) *Acridotheres cristatellus*

[侵入生物データベース \(外部サイト\) へ](#)

中国南部、台湾、ベトナムなどが原産で、全長は約 26cm。日本には江戸時代から輸入されていましたが、1980年代から神奈川県や東京都などで野生化した個体群が確認され、その後、大阪府や兵庫県などでも野生化しています。おもに都市近辺の農地、海岸の埋立地などに生息します。四国では2000年頃から香川県で野生化した個体を確認されるようになりました。

サンジャク (カラス科) *Urocissa erythrorhyncha*

タイ、ベトナムから中国南西部などが原産で、全長約 66cm の尾の長い美しい鳥。森林に生息しますが、農地や果樹園等で餌をとることもあります。2000年代に高知県西部、愛媛県南予地方などで複数個体が野外で確認されています。2010年代には高知県内で繁殖・定着が確認されました。



写真 サンジャク

(撮影：岡井義明、2003年11月1日、愛媛県愛南町正木)

(Photo by Y. Okai. Masaki, Ainan-cho, Ehime Pref., Japan. 1 Nov. 2003.)

資料

外来鳥類に関する総説

Eguchi K. & Amano H. E. (2004) Spread of exotic birds in Japan. *Ornithological Science* 3: 3-11.

江口和洋・天野一葉(2000)移入鳥類の諸問題. *保全生態学研究* 5: 131-148

江口和洋・天野一葉 (1999) 移入鳥類の帰化. *日本鳥学会誌* 47: 97-114.

日本生態学会編(2002)外来種ハンドブック. 地人書館. 390pp. (外来生物全般についての解説書)

四国の外来鳥類に関する論文等

四国外来鳥類研究会(2007) 四国地域におけるチメドリ科外来鳥類の定着実態の解明. 第17期 PRO NATURA FUND 助成. 四国外来鳥類研究会, 高知. 34pp.

城戸崇雄(2010)ソウシチョウ *Leiothrix lutea* の観察記録. *Woodpecker* 2: 39-40.

佐藤重穂(2009)四国山地東部の三嶺山麓におけるソウシチョウの営巣記録. [四国自然史科学研究](#) 5: 24-27.

濱田哲暁・佐藤重穂・岡井義明(2006)外来種ヒゲガビチョウ *Garrulax cineraceus* の四国における記録と繁殖. *日本鳥学会誌* 55: 105-109.

佐藤重穂・濱田哲暁・谷岡仁(2018)四国西部におけるサンジャクの野生化. *Bird Research* 14:S1-S5

リンク(外部サイトへ)

[環境省の外来生物法のサイト](#)

[国立環境研究所の侵入生物データベース](#)

[チメドリ科鳥類5種の識別ガイド](#) ((株) 鳥類環境のサイト)

[NPO 法人四国自然史科学研究センター](#) (四国の外来生物に関する情報が掲載されているサイト)

制作 四国外来鳥類研究会

連絡先 〒780-8077 高知県高知市朝倉西町 2-915 森林総合研究所四国支所

佐藤重穂

TEL: 088-844-1121 (代表) FAX: 088-844-1130

E-mail shigeho(a)affrc.go.jp ← (a) を@に代えてください

・このサイトは今後、新たな知見の追加に伴い、順次更新する予定です。新たな分布情報などがありましたら、上記までご連絡いただくと幸いです。

・このサイトの内容の無断転載はご遠慮ください。

更新履歴

2011年3月25日 作成

2011年3月29日 一部修正（リンク先追加）

2011年4月5日 一部修正（ヒゲガビチョウ、サンジャクの写真追加）

2011年9月8日 一部修正（コリンウズラの項追加）

2014年6月27日 一部修正（カナダガンの記述追加）

2021年7月6日 ファイルをPDFに修正。ヒゲガビチョウとサンジャクの記述を加筆・修正。

[森林総合研究所四国支所のページへ](#)